

大正四年（一九一五）木彫、彩色
一八・八×二〇・一×六七・三



豊かな黒髪を高く髷に結び上げ、団扇を後ろ手に持つ古代装束姿の女性像で、物憂げな表情で立つ姿が量感豊かにとらえられた木彫作品である。題名の「朝霞開宿霧」は、朝霞が夜霧（宿霧）を吹き払う、との意味であろうが、その典拠やこの女性像との関連は明確でない。長方形の木製台がともない、台の背面に「大正四年秋 後藤良作」と緑青で記される。作者の後藤良（一八八二～一九五七）が大正四年の第九回文展に初めて出品し、褒状を受賞し、宮内省の買上げを受けた作品である。後藤はこの後、同九年第二回帝展出品の《梨花夫人》

が特選、翌年にやはり特選を得た《宓妃》、大正十三年の《梅妃》など、東洋の女性像を主題とした作品を発表して帝展での評価を確実なものとした。

後藤は、明治期に活躍した彫刻家、後藤貞行の次男である。東京美術学校で木彫を学んだ後、日本美術協会美術展覧会などで作品を発表。大正三年から再び東京美術学校で塑造を学び、その後は文展、帝展で活躍した。明治末頃より能楽に惹かれるようになり、昭和十三年には「能美会」を結成するなど、能楽を主題とする作品に取り組み、独自の世界を築いた。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

古典再生 — 作家たちの挑戦

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 72

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十八年三月二十六日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanjūmaru Shōzokan